

解答

記号

20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
一富士二鷹三茄子	一難去ってまた一難	一事が万事	急がば回れ	いずれ菖蒲か杜若	医者の不養生	石橋をたたいて渡る	石の上にも三年	案ずるより産むが易し	雨降って地固まる	虻蜂取らず	あばたもえくぼ	後は野となれ山となれ	暑さ寒さも彼岸まで	あちら立てればこちらが立たぬ	頭の上の蠅を追え	秋茄子は嫁に食わず	頭隠して尻隠さず	会うは別れの始め	
ケ	ア	サ	ウ	コ	イ	シ	エ	チ	ス	オ	テ	ソ	キ	ツ	セ	カ	タ	ク	ト

ト	テ	ツ	チ	タ	ソ	セ	ス	シ	サ	コ	ケ	ク	キ	カ	オ	エ	ウ	イ	ア
出会いは後には必ず別れがあるので、会うことは分かれることの始まりでもある。人生のおなしさを表した言葉。	好きになると、相手の欠点までもが長所に見えてしまうということ。	ものごとを、二つの立場の両方を満足させられるようにするのは難しい、ということ。	やる前からあれこれ心配していた物事も、実際にやってみると、思っていたよりもたやすいものだということ。	悪事や欠点をすべて隠し通したとおもっていても、実際にはその一部しか隠せていないことのとえ。	目先の問題さえ片付けば、あとはどうなってもかまわない。なるようになれ、という無責任な態度。	占いは当たることも外れることもあるので、結果を気にしすぎてはいけないということ。	争いごとや悪いことが起こった後には、かえって物事がうまくいくこと。	用心を重ねて、物事を慎重に行うことのとえ。	ある一つのことを見れば、ほかのすべてのことも推察できる、ということ。	どちらも優れていて、優劣がつけられないこと。	初夢に見ると縁起がいいとされるものを、順に並べた言葉。	秋のなすは美味しくもつたいないから、(または、体を冷やす効果があるから)嫁に食べさせてはいけない。	夏の暑さや冬の寒さは、彼岸の頃には和らいで、過ぎしやすくなるということ。	人の心配をするよりも、まずは自分のことをしっかりしなさい、ということ。人の世話を焼きたがる人などに使う。	二つの物を両方手に入れようとして、どちらも取り逃すこと。欲張りすぎて失敗すること。	つらくて大変なことでも、辛抱して続けなければいつかは成功する。	危険な近道を通るより、遠回りでも確実な道を通る方が早く目的地に着く。	人には立派なことを言っておきながら、自分は、それを実践していかないことのとえ。	次から次へと災難がやってくること。

40	39	38	37	36	35	34	33	32	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21
鬼の居ぬ間に洗濯	鬼に金棒	小田原評定	驕る平家は久しからず	縁の下の力持ち	海老で鯛を釣る	江戸の敵を長崎で討つ	噂をすれば影	瓜の蔓に茄子はならぬ	馬の耳に念仏	鶉の真似をする鳥	嘘も方便	嘘つきは泥棒の始まり	嘘から出た誠	氏より育ち	牛にひかれて善光寺参り	魚心あれば水心	言わぬが花	一寸の虫にも五分の魂	一寸先は闇
オ	ツ	ク	タ	ト	ソ	ケ	セ	ス	ウ	シ	カ	工	キ	テ	イ	ア	チ	サ	コ

解答

ト	テ	ツ	チ	タ	ソ	セ	ス	シ	サ	コ	ケ	ク	キ	カ	オ	工	ウ	イ	ア
人に知られないところで他人のために努力や苦勞をするこ と。また、そのような人。	家柄の良さなどよりも育った環境のほうが、その人の人間 性に大きく影響し、大切だということ。	もともと強い存在が、何かを得ることでさらに強力になる ことのとえ。	口に出して言わない方が、味があるということ。また口に 出すと差し障るので言わないほうがいい。	思い上がってわがままに振る舞うものは、いつまでも栄え ていることはできずに、勢力も衰えて減びるということ。	少しの元手や努力で、大きな利益を得ることのとえ。	誰かの噂をしていると、その本人が現れることがあるとい うこと。	平凡な親からは平凡な子供しか生まれないことのとえ。	カラスが鶉を真似て魚を捕ろうとしても、うまくいかな い。身の程をわきまえず、人の真似をして失敗すること。	小さくて弱い者にも相応の意地があるのだから、どんな相 手であってもあなどってはいけない、ということ。	将来のことは、ちょっとさきのことでも全くわからないと いうこと。	意外なところで、昔の恨みを晴らすことのとえ。	意見が分かれていて、なかなかまとまらない相談や会議。	嘘で言っただけのこと、たまたま実現してしまうこと。	物事を順調に進めるためには、時と場合によっては嘘をつ くことも必要だということ。	怖い人やうるさく注意してくる人がいない間に、のんびり くつろぐこと。	平気でうそをつくようになると、やがては盗みも平気です るようになる。だから嘘はついてはいけないということ。	人の意見や忠告を聞き流してしまい、何とも思わないこと のとえ。	思わぬ偶然や他人の誘いで、良い結果を得たり、良いほう へと導かれること。	相手が好意を示すのならば、自分もそれに応じて、好意を もって対応しよう、ということ。

記号

60	59	58	57	56	55	54	53	52	51	50	49	48	47	46	45	44	43	42	41
枯れ木も山の賑わい	鴨が葱を背負ってくる	亀の甲より年の功	果報は寝て待て	壁に耳あり障子に目あり	金は天下の回りもの	勝てば官軍	河童の川流れ	勝って兜の緒を締めよ	火中の栗を拾う	風邪は万病の因	風が吹けば桶屋が儲かる	蛙の面に水	蛙の子は蛙	親の心子知らず	思い立ったが吉日	溺れる者は藁をもつかむ	帯に短したすきに長し	鬼の目にも涙	鬼の霍乱
ア	イ	セ	ト	カ	サ	チ	オ	コ	工	キ	タ	ク	シ	テ	ウ	ス	ソ	ツ	ケ

解答

ト	テ	ツ	チ	タ	ソ	セ	ス	シ	サ	コ	ケ	ク	キ	カ	オ	工	ウ	イ	ア
運は人の力ではどうすることもできないので、焦らずに待っていた方が幸運はやってくるものだということ。	親の子どもへの愛情を知らないで、子どもは好き勝手にふるまうものだということ。	無慈悲で鬼のような人でも、時には同情したり、かわいそうに思ったりして涙をながすことのとえ。	最終的に勝ったほうが理屈抜きで正義となり、負けたほうがすべて悪いということになるのが世の常だということ。	ある出来事が巡り巡って思わぬ結果を生じること。また、当てにならないことに期待をすること。	物事が中途半端で何にも使えず、役に立たないこと。	年長者が身に付けた長年の経験や豊富な知識は大事にするべきだということ。	非常に困ったり苦しんだりしている人が、頼りになりそうにないものにもすがろうとすることのとえ。	平凡な親からは平凡な子どもしか生まれないということ。子どもは才能などは、結局は親に似るものだということ。	お金是人から人へと渡っていくので、今は貧しくてもいつかは回ってきたり、入ってきたお金が出ていく物だ。	たとえ物事が思い通りにうまくいっても、気を緩めてはいけないということ。	普段は丈夫で病気にかかりそうにない人が、珍しく病気になる様子。	どんな目にあっても、何も感じていないかのように平気でいる様子。	風邪を引くと体が弱り、他の病気にかかりやすくなるので、軽く見えてはいけないということ。	隠し事はとにかく漏れやすいものだから、注意したほうがいいという戒め。	何かの名人であっても、油断したりして、時には失敗するということ。	自分の利益にならないのに、あえて他人のために危険なことをするたとえ。	物事を始めようと決心したら、始める日を選ばずに、すぐに始めたほうが良いということ。	鴨が葱を背負ってきたら、すぐに鴨鍋ができるように、都合が重なり、さらに都合がいいことのとえ。	つまらない、あるいは役に立たない物でも、無いよりはあったほうがましだということのとえ。

記号

80	弘法筆を選ばず	オ
79	弘法にも筆の誤り	セ
78	郷に入っては郷に従え	エ
77	孝行のしたい時分に親は無し	シ
76	後悔先に立たず	ウ
75	光陰矢のごとし	ツ
74	喧嘩両成敗	ア
73	犬猿の仲	イ
72	芸は身を助ける	ケ
71	君子危うきに近寄らず	サ
70	苦しい時の神頼み	コ
69	口は災いの元	タ
68	腐っても鯛	ク
67	木を見て森を見ず	ソ
66	清水の舞台から飛び降りる	ト
65	九死に一生を得る	チ
64	雉も鳴かずに撃たれまい	ス
63	聞くは一時の恥、聞かぬは一生の恥	キ
62	聞いて極楽見て地獄	カ
61	かわいい子には旅をさせよ	テ

解答

ト	うまくいくかはわからないことでも、思い切った決断を下すことのたとえ。
テ	甘やかして育てるよりも、世の中でつらくて苦しい体験をさせたほうが、愛する子どものためになるということ。
ツ	月日がたつのがとても速いことのたとえ。また、時間を無駄にしてはいけないという戒め。
チ	まず助からないだろうという危険な状態から何とか助かること。
タ	自ら話したことが災いを招くこともあるので、余計な発言は慎んだ方がよい。
ツ	物事の些細な事ばかり注意していると全体を見失うということ。
セ	どんなに優れた人物でも、失敗することはあるというたとえ。
ス	鳴いたがために撃たれた雉のように、必要のないことをした結果、災難を招いてしまうこと。
シ	親のありがたみが解る頃には、すでに亡くなっているものだ。だから、親が元気なうちに孝行したほうがよい。
サ	親のありがたみが解る頃には、すでに亡くなっているものもものなので、危険なことには初めから近寄らない。
コ	信じていない神様や、あまり付き合ひのない人などに、困った時だけ頼ろうとすること。
ケ	身につけた技能はいざと言うときに役立つことがある。
ク	価値あるものは多少条件が悪くなってもそれなりの価値はある。
キ	知らないことを聞くことは、その時に恥をかくだけだが、知らないままだと一生恥ずかしい思いをすることになる。
カ	人から話に聞いたものを実際に見てみると、聞いていたことと大きく違っていること。
オ	優れた名人・達人は、道具のよしあしに関係なく立派な仕事をやるものだということ。
エ	優れた名人・達人は、道具のよしあしに関係なく立派な仕事をやるものだということ。
ウ	すでにしてしまった失敗を後で後悔しても取り返しがつかない。だから後悔しないように注意しなさい。
イ	犬と猿のように、二者の仲がとても悪いことのとたとえ。
ア	喧嘩をしたものは、どちらが悪いかに関係なく、どちらも同じように罰を与えるべきだということ。

記号

解答

記号

100	99	98	97	96	95	94	93	92	91	90	89	88	87	86	85	84	83	82	81
泰山鳴動して鼠一匹	袖振り合うも多生の縁	善は急げ	梅檀は双葉より芳し	急いては事を仕損じる	住めば都	好きこそものの上手なれ	知らぬが仏	初心忘るべからず	朱に交われれば赤くなる	失敗は成功の基	親しき仲にも礼儀あり	地獄の沙汰も金次第	三人寄れば文殊の知恵	山椒は小粒でもぴりりと辛い	触らぬ神に祟りなし	猿も木から落ちる	先んずれば人を制す	転ばぬ先の杖	紺屋の白袴
ス	セ	シ	ア	工	チ	テ	ツ	サ	オ	ト	カ	ウ	ケ	ク	イ	タ	ソ	キ	コ

ト	テ	ツ	チ	タ	ソ	セ	ス	シ	サ	コ	ケ	ク	キ	カ	オ	工	ウ	イ	ア
成功へとつながる。やがては成功するものだという事だ。	好きなことには自然とやる気がでてくるから、上手になるという事だ。	平気でいられるという事だ。	知ったら腹が立つような事でも、知らないままでいれば気がいい。	不便な場所でも長く住めば慣れて、良いと思えるようになるという事だ。	どんなに優れた人物でも、失敗することはあるという事だ。	些細なことも何らかの因縁によって結ばれているものだ。	人より先に行動すれば、有利になって相手を制することができるという事だ。	良いと思ったことは、ためらわずに急いでやるべきだ。	前触れが大きい割に、大したことのない結果に終わることだ。	物事に慣れて急げたりすることのないように、それを始めたときの心構えや決心は忘れずにいるべきだという事だ。	自分の技能は他人にばかり使っていて、自分の事には使われていないことのとえ。	一人ではよい考えが浮かばない凡人でも、三人集まって考えれば、すばらしい知恵が浮かんでくるという事だ。	体が小さくても、意志が強くて才能もあり、あなどる事ができない者のたとえ。	失敗しないように、あらかじめ十分に用心しておくこと。また、そのような用心が大切だというたとえ。	どんなに親しい仲でも、遠慮がなくなると喧嘩の原因になるから、それなりの礼儀を守って付き合うべきだ。	焦って事に当たると失敗しやすい。	世の中は、お金さえあればなんでも自由にできるという事だ。	余計な災難にあわないために、余計なことには手出ししない方がいい。	大人になって大成するような人は、子どもの時から並外れて優れているという事だ。

120	119	118	117	116	115	114	113	112	111	110	109	108	107	106	105	104	103	102	101
灯台下暗し	天は二物を与えず	出る杭は打たれる	鉄は熱いうちに打て	敵は本能寺にあり	鶴は千年、亀は万年	角を矯めて牛を殺す	月とすっぽん	沈黙は金、雄弁は銀	塵も積もれば山となる	提灯に釣り鐘	短気は損気	玉磨かざれば光なし	旅は道連れ世は情け	旅の恥はかき捨て	棚からぼた餅	蓼食う虫も好き好き	立つ鳥跡を濁さず	立っているものは親でも使え	ただより高いものはない
サ	カ	ソ	ウ	イ	セ	タ	ク	テ	ケ	キ	ス	ア	オ	ツ	シ	チ	コ	ト	工

ト	テ	ツ	チ	タ	ソ	セ	ス	シ	サ	コ	ケ	ク	キ	カ	オ	工	ウ	イ	ア
そばで立っている人に頼むべきだ。	急ぎの用事があるときには、たとえ親であったとしても、うまく話すことも重要だが、それ以上に沈黙していることの方が価値があることもある。	旅先には自分を知る者もいないので、恥ずかしい行いも平気でしてしまう。	辛い蓼を好む虫もいるように、人の好き嫌いはさまざまだということ。	少しの欠点を直そうとしてやりすぎてしまい、かえって全体をだめにしてしまうこと。	才能があつて抜きんでている人や、でしゃばっている人は、嫉妬されたり、憎まれたりするということ。	寿命が長くて、めでたいことのととえ。	短気を起こすと、いらいらしたり、他人と衝突したりして、損をすることになる。	予想もしていなかった幸運が舞い込むことのととえ。	身近なことほど案外気づきにくいものだ。	立ち去るときの後始末は、見苦しくないようにきちんとするべきだということ。	小さなことも継続すれば膨大なものとなる。だから小さなこともおろそかにするべきではない。	二つの物が、形は似ていても、比べられないくらいに差があることのととえ。	形は似ているが実際は違いすぎて比較にならないこと。つまり合いがとれないこと。	天は一人の人間に、たくさんの長所や才能を与えることはないということ。	一人で旅するよりも同行者がいたほうが心強いように、世の中でも互いに助け合い生きることが大切だということ。	ただで物をもらうと、お礼にお金がかかったり、その人に頼みごとをされたりと、かえって高くつくということ。	① 考え方の柔軟な若いうちに鍛えておいた方が良い。② 情熱を持って事に当たれる時期を逃してはいけない。	本当の目的が全く別のところにあることのととえ。	才能や素質があつても努力なくして真価を発揮することはできない。

140	139	138	137	136	135	134	133	132	131	130	129	128	127	126	125	124	123	122	121
習うより慣れる	生兵法は大怪我の元	怠け者の節句働き	七転び八起き	情けは人のためならず	なくて七癖	泣く子と地頭には勝てぬ	泣きっ面に蜂	長いものには巻かれる	鳶に油揚げをさらわれる	鳶が鷹を生む	飛んで火にいる夏の虫	どんぐりの背比べ	取らぬ狸の皮算用	隣の花は赤い	年寄りの冷や水	所変われば品変わる	時は金なり	遠い親戚より近くの他人	豆腐にかすがい
シ	イ	タ	工	サ	チ	カ	ク	ウ	ア	ケ	ソ	ツ	セ	ス	キ	コ	テ	ト	オ

ト	テ	ツ	チ	タ	ソ	セ	ス	シ	サ	コ	ケ	ク	キ	カ	オ	工	ウ	イ	ア
く、日ごろ付き合ひのある近所の他人だということ。	時間はお金と同じように貴重なものだから、無駄に使ってはいけない。	どれも似たようなものばかりで、大した違いがないこと。	どんな人でも、多かれ少なかれ、何か癖をもっているということ。	普段怠けている者ほど他人が休んでいるときに限って忙しそうにするものだ。	自分から進んで危険を冒し、災難を招くこと。	まだ決まっていなことを当てにして、計画を立てたり、利益を考えたりすること。	他人の物は自分のものよりもよく見えて、うらやましく思う。	物事は、人や本から教わるよりも、体験として実際に経験した方が身につく。	人に親切にすると、巡り巡って自分にいい報いがかえってくるので、自分のためにもなるということ。	その土地によって言葉や習慣は違うものだということ。	平凡な親が、才能のある優れた子どもを産むことのとたえ。	不運なことの上に、さらに不運なことが続て起こること。	年寄りが、年齢に合わない無理や無茶をすることのとたえ。	理屈の通じない者や権力者などには、いくらこちらが正しくても勝てないから、従うしかないということ。	何の効果も反応もないことのとたえ。	何回失敗してもくじけずに、勇気を出して立ち上がること。	権力のある人や目上の人には、逆らうよりも従ったほうが得だということ。	中途半端な知識・技術はかえって失敗のもとである。	大切なもの、または自分のものになると思ったものを、いきなり横からうばわれること。

160	159	158	157	156	155	154	153	152	151	150	149	148	147	146	145	144	143	142	141
人は見かけによらぬもの	人のふり見てわがふり直せ	人の口には戸が立てられない	人のうわさも七十五日	必要は発明の母	腹八分目に医者いらす	早起きは三文の徳	花より団子	暖簾に腕押し	喉元過ぎれば熱さを忘れる	能ある鷹は爪を隠す	猫に小判	猫に鯉節	濡れ手で粟	糠に釘	二兎を追うものは一兎をも得ず	逃げるが勝ち	憎まれっ子世にはばかる	逃がした魚は大きい	二階から目薬
カ	オ	テ	セ	ソ	ア	ケ	チ	ク	ト	サ	コ	ウ	タ	エ	イ	ツ	キ	ス	シ

解答

ト	テ	ツ	チ	タ	ソ	セ	ス	シ	サ	コ	ケ	ク	キ	カ	オ	エ	ウ	イ	ア
苦しう辛い出来事も、過ぎ去ってしまったえばその苦しさを忘れてしまう。	世間でうわさ話が広がることを防ぐことはできないということ。	時には、戦わずに逃げる方が、結果的に得になるということ。	風流を楽しむより実益を取る方が良いというたとえ。見かけよりも実質を取ることに。	ほとんど苦勞もせずにも大もうけすることのたとえ。	必要なものを作ろうと工夫することから、発明が生まれるということ。	世間は忘れやすくどんな噂も長続きはしない。	もう少しで手に入る、というところで逃がしたものは、実際よりも立派だったように思えるということ。	思うようにならなくてもどかしいこと。全く、効き目のないこと。	実力や才能のある者ほど、それをむやみに見せびらかさうとはしない。	価値のわからない者に貴重な品を与えても、何の役にも立たないことのとえ。	早起きをする、健康に良かったり、仕事がかどつたりと、なにかとよいことがある。	少しも手ごたえがないこと。	人から嫌われるような人に限って、世間では幅を利かせているものだ。	人の本当の性格や実力は、外から見ただけではわからないということ。	他人の行いを見て自分の行いを反省し、悪いところはなおしなさいということ。	手ごたえがなく効果もないこと。	油断できない状況。危険な状態。	欲張って一度に二つのことをしようとしても、結局どちらもうまくいかないということ。	食事を食べ過ぎずに控えめにしておけば、健康を保てるということ。

記号

180	179	178	177	176	175	174	173	172	171	170	169	168	167	166	165	164	163	162	161
負けるが勝ち	まかぬ種は生えぬ	骨折れ損のくたびれもうけ	仏の顔も三度	仏作って魂入れず	ペンは剣よりも強し	蛇ににらまれた蛙	下手の横好き	下手の考え休むに似たり	下手な鉄砲も数撃ちや当たる	豚に真珠	笛吹けども踊らず	夫婦喧嘩は犬も食わない	貧乏暇なし	貧すれば鈍する	ひょうたんから駒が出る	百害あって一利なし	火のない所に煙は立たぬ	人を見たら泥棒と思え	人を呪わば穴二つ
コ	チ	キ	ト	ケ	エ	ソ	ス	シ	イ	ウ	ツ	テ	サ	タ	オ	セ	カ	ア	ク

解答

ト	テ	ツ	チ	タ	ソ	セ	ス	シ	サ	コ	ケ	ク	キ	カ	オ	エ	ウ	イ	ア
後には怒りだすということ。	どんなに温厚な人でも、何回もひどいことをされると、最後には怒りだすということ。	準備を整えて、さかんに誘っているのに、誰もそれに応じようとしないことのとたとえ。	結果があるからには必ず原因がある。努力なくしてよい結果は出ないということ。	貧しくなると頭も鈍くなる。	強敵や苦手なものなどの前で、恐ろしさから身がすくみ、動けない様子。	害になることばかりあって、利益になるような良いことが何もないこと。	下手なくせに、そのことをするのが好きで熱中すること。	良い考えが浮かばないのに長い時間考えるのは、時間の無駄だということ。	貧乏な人は生活に追われ、暇がないということ。	争わず、あえて勝ちを譲ることで、一時的には負けていても、結果的に有利になり、勝ちにつながるということ。	苦勞して完成させた物事に、一番大事なところが抜けていて、役に立たないこと。	他人に害を与えようとすれば、やがて自分もその報いを受けるということ。	苦勞したのに成果が出ず、徒勞に終わってしまうこと。	噂をされるからには、必ず何かの原因、事実があるだろうということ。	思いがけないところから意外なものが出る。冗談が現実となる。	優れた文章は世の人々を動かし、武力よりも強い力を持つということ。	価値のわからない人に貴重な品を与えても、何の役にも立たないことのとたとえ。	何度もあれこれ試してみれば、偶然うまくいくこともあるということ。	他人を簡単に信用してはいけない。まずは用心しろということ。

記号

解答

記号

200	199	198	197	196	195	194	193	192	191	190	189	188	187	186	185	184	183	182	181
痩せの大食い	安物買いの銭失い	門前の小僧習わぬ経を読む	桃栗三年柿八年	物言えば唇寒し秋の風	元の木阿弥	餅は餅屋	目は口ほどにものを言う	目の上のこぶ	目くそ鼻くそを笑う	無理が通れば道理引つ込む	昔取った杵柄	身を捨ててこそ浮かぶ瀬もあれ	実るほど頭の下がる稲穂かな	三つ子の魂百まで	見ざる聞かざる言わざる	身から出たさび	ミイラ取りがミイラになる	丸い卵も切りようで四角	待てば海路の日和あり
ス	タ	ク	セ	テ	サ	エ	ア	ウ	カ	オ	キ	チ	ツ	シ	ト	コ	イ	ソ	ケ

ト	テ	ツ	チ	タ	ソ	セ	ス	シ	サ	コ	ケ	ク	キ	カ	オ	エ	ウ	イ	ア
自分に都合の悪いことや他人の欠点は、見ないふり、聞かないふりをして、余計なことは言わないようにすること。	余計な発言で災いを招く。人の悪口を言うと、何となく後味の悪い気持ちになる。	えめで、素直な態度でいること。	心の狭い人ほど偉そうにふるまい、優れた人物はむしろ控がでけるといふこと。	捨てる身の覚悟で物事にあたって、はじめて成し遂げることが出来ること。	喧嘩になってしまふこともあること。	言い方ややり方次第で、物事がうまくいくこともあれば、物事は品質の悪いものや使いにくいものが多く、すぐだめになるので、結局は損をしてしまふこと。	安物は品質の悪いものや使いにくいものが多く、すぐだめになるので、結局は損をしてしまふこと。	物事を成し遂げるまでには時間がかかるものだということ。	人には、案外大食いな人が多いこと。	瘦せているくせによく食べる人のこと。また、瘦せている人には、案外大食いな人が多いこと。	幼いころの性格は、一生変わらないこと。	努力や苦労が無駄になってしまふこと。	自分がしたことが原因で災難にあふこと。	悪い状況でも、あせらずに待っていれば、そのうち良いことがあるといふこと。	常日頃接していることは自然と身につくものだ。	衰えないこと。	昔身に付けた技量のこと。また、それが年を取ってからも衰えないこと。	自分に付けた技量のこと。また、それが年を取ってからも衰えないこと。	常日頃接していることは自然と身につくものだ。

220	和をもつて貴しとなす	ツ
219	破れ鍋に綴じ蓋	ケ
218	笑う門には福来る	エ
217	渡る世間に鬼はない	イ
216	若い時の苦勞は買つてでもせよ	キ
215	論より証拠	ト
214	論語読みの論語知らず	テ
213	ローマは一日にしてならず	コ
212	勞多くして功少なし	ソ
211	瑠璃も玻璃も照らせば光る	ス
210	類は友を呼ぶ	シ
209	樂は苦の種、苦は樂の種	タ
208	樂あれば苦あり	オ
207	來年のことを言えば鬼が笑う	ウ
206	弱り目に祟り目	カ
205	寄らば大樹の陰	チ
204	よしの髓から天井をのぞく	ア
203	病は氣から	ク
202	藪をつついて蛇を出す	セ
201	柳の下にいつもどじょうはいない	サ

ト	議論するよりも証拠を示したほうが、物事をすっきり解決することができる。
テ	書物から得た知識があっても、実行が伴わない。
ツ	他の人と仲よくやっていくことが、何よりも大切だということ。
チ	頼りにする相手を選ぶときには、できるだけ力のある人を選んだ方がいいということ。
タ	樂をしていると後で苦勞することになり、逆に、苦勞をしておくとは後で樂ができるということ。
ソ	苦勞が多いわりに効果が少なく、報われないこと。
セ	余計なことをして、かえって損をしたり、災難にあったりする。
ス	才能や素質のある人は、どこにいても目立つということ。
シ	氣の合う人や似ている人は、自然に集まって仲間になるものだという。
サ	偶然うまくいった時と同じやり方をしても、いつもうまくいくとは限らないということ。
コ	長い時間と勞力をかけて初めて、大きなことを成し遂げることができるとのこと。
ケ	どんな人にも、その人にぴったり合う相手がいるということ。また、そのような人と一緒になればうまくいく。
ク	病氣は氣持ち次第で、良くも悪くもなるということ。
キ	若い時に苦勞をしておく、その経験が後で役に立つ。だから若い時には進んで苦勞したほうが良いということ。
カ	不運なことや災難が、何度も重なって起こることのたとえ。
オ	世の中は樂しいことばかりではないので、樂しいことの後には、必ず苦しいことが来るとのこと。
エ	笑いが絶えない家は、自然と幸せが訪れる。また、どんなに辛い時もくじけずに笑っていれば、幸せがやってくる。
ウ	將來のことはわからないので、あれこれ言っても仕方ないというたとえ。
イ	世間には、思いやりのない冷たい人だけでなく、困った時に助けてくれる親切な人もいるということ。
ア	自分の狭い知識や経験だけで、広い世界や大きな問題についてを判断しようとする。